

(I)

- (1) ア p^{4n} イ $1 - p^n$ ウ $\frac{65}{256}$ エ $p(1 - p^3)$ オ $\frac{27}{64}$
 (2) カ -1 キ 5 ク -5 ケ $\sqrt{5}$ コ $\sqrt{5 + 2\sqrt{5}}$

■解説

(1) ア $q_n(4)$ は、すべての硬貨について n 回の試行ですべて表が出る確率であり、

$$\begin{aligned} q_n(4) &= (p^n)^4 \\ &= p^{4n} \end{aligned}$$

である。

イ $q_n(0)$ は、すべての硬貨について「 n 回の試行で少なくとも 1 回裏が出る」…① ことが起こる確率である。① が起こる確率は $1 - p^n$ だから、 $q_n(0) = \{1 - p^n\}^4$ である。

ウ 1 回目の試行を終えた時点で硬貨 A が k 枚だけ残る確率を P_k とすると ($k = 1, 2, 3, 4$)、 P_k は 1 回の試行において 4 枚中 k 枚表が出てかつ $4 - k$ 枚裏が出る確率であり、これは反復試行の確率公式から $P_k = {}_4C_k p^k (1 - p)^{4-k}$ となる。

1 回目の試行を終えた時点で硬貨 A が k 枚だけ残っているとき、その k 枚の硬貨が 2 回目に硬貨 B になる、すなわちその k 枚の硬貨を投げた結果すべてが裏となる確率は $(1 - p)^k$ である ($k = 1, 2, 3, 4$)。

求める確率は、 $p = \frac{1}{2}$ であることもふまえ、

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^4 P_k \times (1 - p)^k &= \sum_{k=1}^4 {}_4C_k p^k (1 - p)^{4-k} \times (1 - p)^k \\ &= (1 - p)^4 \left(\sum_{k=0}^4 {}_4C_k p^k - {}_4C_0 p^0 \right) \\ &= \left(1 - \frac{1}{2} \right)^4 \left\{ \sum_{k=0}^4 {}_4C_k \left(\frac{1}{2} \right)^k - 1 \right\} \\ &= \frac{1}{16} \left\{ \left(1 + \frac{1}{2} \right)^4 - 1 \right\} = \frac{65}{256} \end{aligned}$$

となる。

エ $q_3(1)$ は、「1 枚の硬貨について 3 回の試行ですべて表が出る」…② ことが起こり、かつ「残りの 3 枚の硬貨については 3 回の試行で少なくとも 1 回裏が出る」…③ 確率である。

② が起こる確率は p^3 である。1 枚の硬貨について 3 回の試行で少なくとも 1 回裏が出る確率は $1 - p^3$ だから、③ が起こる確率は $(1 - p^3)^3$ である。3 回の試行ですべて表が出る 1 枚の硬貨の選び方が ${}_4C_1$ 通りだけあることもふまえ、

$$\begin{aligned} q_3(1) &= {}_4C_1 p^3 \{ (1 - p^3) \}^3 \\ &= 4 \times \{ p(1 - p^3) \}^3 \end{aligned}$$

となる.

オ $x = p^3$ とおくと $0 < p < 1$ より x のとりうる値の範囲は $0 < x < 1$ であり, $q_3(1) = 4x(1-x)^3$ ($= f(x)$ とする) となる.

$$\begin{aligned} f'(x) &= 4(1-x)^3 - 4x \cdot 3(1-x)^2 \\ &= 4(1-x)^2(1-4x) \end{aligned}$$

であるから, $0 < x < 1$ における $f(x)$ の増減は下表のようになる.

x	0	...	$\frac{1}{4}$...	1
$f'(x)$			+	0	-
$f(x)$			\nearrow	$\frac{27}{64}$	\searrow

増減表より $q_3(1)$ の最大値は $f\left(\frac{1}{4}\right) = \frac{27}{64}$ となる.

(2) 方程式 $z^5 = 1 \cdots \textcircled{4}$ を $z \neq 1$ の下で解くと,

$$z^5 - 1 = 0$$

$$(z-1)(z^4 + z^3 + z^2 + z + 1) = 0$$

$$z^4 + z^3 + z^2 + z + 1 = 0$$

となることから w は $w^4 + w^3 + w^2 + w + 1 = 0$ を満たし, よって $w + w^2 + w^3 + w^4 = -1 \cdots \textcircled{5}$ である. また w は $\textcircled{4}$ の解なのだから $w^5 = 1 \cdots \textcircled{6}$ も成り立つ.

$\textcircled{6}$ より $(w, w^2, w^3, w^4) = \left(\frac{1}{w^4}, \frac{1}{w^3}, \frac{1}{w^2}, \frac{1}{w}\right) \cdots \textcircled{6}'$ であるから,

$$\begin{aligned} \alpha^2 &= \{(w + w^4) - (w^2 + w^3)\}^2 \\ &= \left\{ \left(w + \frac{1}{w}\right) - \left(w^2 + \frac{1}{w^2}\right) \right\}^2 \\ &= \left(w + \frac{1}{w}\right)^2 + \left(w^2 + \frac{1}{w^2}\right)^2 - 2 \left(w + \frac{1}{w}\right) \left(w^2 + \frac{1}{w^2}\right) \\ &= w^2 + \frac{1}{w^2} + 2 + w^4 + \frac{1}{w^4} + 2 - 2 \left(w^3 + \frac{1}{w} + w + \frac{1}{w^3}\right) \\ &= w^2 + w^3 + w^4 + w + 4 - 2(w^3 + w^4 + w + w^2) \quad (\textcircled{6}' \text{より}) \\ &= -1 + 4 - 2(-1) \quad (\textcircled{5} \text{より}) \\ &= 5 \end{aligned}$$

である. 同様にして,

$$\begin{aligned}
 \beta^2 + 2\alpha &= \{(w - w^4) + (w^2 - w^3)\}^2 + 2\{(w + w^4) - (w^2 + w^3)\} \\
 &= \left\{ \left(w - \frac{1}{w} \right) + \left(w^2 - \frac{1}{w^2} \right) \right\}^2 + 2(w - w^2 - w^3 + w^4) \\
 &= \left(w - \frac{1}{w} \right)^2 + \left(w^2 - \frac{1}{w^2} \right)^2 + 2 \left(w - \frac{1}{w} \right) \left(w^2 - \frac{1}{w^2} \right) + 2(w - w^2 - w^3 + w^4) \\
 &= w^2 + \frac{1}{w^2} - 2 + w^4 + \frac{1}{w^4} - 2 + 2 \left(w^3 - \frac{1}{w} - w + \frac{1}{w^3} \right) + 2(w - w^2 - w^3 + w^4) \\
 &= w^2 + w^3 + w^4 + w - 4 + 2(w^3 - w^4 - w + w^2) + 2(w - w^2 - w^3 + w^4) \\
 &= -1 - 4 = -5
 \end{aligned}$$

である.

⑥ より $|w|^5 = 1$ であり, これより $|w| = 1$ である. よって,

$$\begin{aligned}
 |w|^2 &= 1 \\
 w\bar{w} &= 1 \\
 \bar{w} &= \frac{1}{w} \dots \textcircled{7}
 \end{aligned}$$

である. また $|w| = 1$ かつ $w \neq 1$ より $w = \cos \theta + i \sin \theta$ ($0 < \theta < 2\pi$) とおけて, これと ⑥ より,

$$(\cos \theta + i \sin \theta)^5 = 1$$

$$\cos 5\theta + i \sin 5\theta = 1$$

であり, 今, $0 < 5\theta < 10\pi$ だから上式を満たす θ の値は $5\theta = 2\pi, 4\pi, 6\pi, 8\pi$, すなわち $\theta = \frac{2}{5}\pi, \frac{4}{5}\pi, \frac{6}{5}\pi, \frac{8}{5}\pi$ である.

$\theta = \frac{2}{5}\pi$ の場合を考えると $w = \cos \frac{2}{5}\pi + i \sin \frac{2}{5}\pi$, $w^2 = \left(\cos \frac{2}{5}\pi + i \sin \frac{2}{5}\pi \right)^2 = \cos \frac{4}{5}\pi + i \sin \frac{4}{5}\pi$ であり,

$$\begin{aligned}
 w + w^4 &= w + \frac{1}{w} \quad (\textcircled{6}' \text{より}) \\
 &= w + \bar{w} \quad (\textcircled{7} \text{より}) \\
 &= \left(\cos \frac{2}{5}\pi + i \sin \frac{2}{5}\pi \right) + \left(\cos \frac{2}{5}\pi - i \sin \frac{2}{5}\pi \right) \\
 &= 2 \cos \frac{2}{5}\pi \\
 w^2 + w^3 &= w^2 + \frac{1}{w^2} \quad (\textcircled{6}' \text{より}) \\
 &= w^2 + \bar{w}^2 \quad (\textcircled{7} \text{より})
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
&= w^2 + \overline{w^2} \\
&= \left(\cos \frac{4}{5}\pi + i \sin \frac{4}{5}\pi \right) + \left(\cos \frac{4}{5}\pi - i \sin \frac{4}{5}\pi \right) \\
&= 2 \cos \frac{4}{5}\pi
\end{aligned}$$

であり, これらを辺々引くことにより $(w + w^4) - (w^2 + w^3) = 2 \cos \frac{2}{5}\pi - 2 \cos \frac{4}{5}\pi$, すなわち $2 \cos \frac{2}{5}\pi - 2 \cos \frac{4}{5}\pi = \alpha$ を得る. よって, $\frac{2}{5}\pi, \frac{4}{5}\pi$ がそれぞれ鋭角, 鈍角ゆえ $2 \cos \frac{2}{5}\pi - 2 \cos \frac{4}{5}\pi > 0$ であることと **キ** の結果から $2 \cos \frac{2}{5}\pi - 2 \cos \frac{4}{5}\pi (= \alpha) = \sqrt{5}$ である. すると **ク** の結果から,

$$\beta^2 + 2\sqrt{5} = -5$$

$$\beta^2 = -(5 + 2\sqrt{5}) \cdots \textcircled{8}$$

となる.

余弦の計算のときと同様にして

$$\begin{aligned}
w - w^4 &= \left(\cos \frac{2}{5}\pi + i \sin \frac{2}{5}\pi \right) - \left(\cos \frac{2}{5}\pi - i \sin \frac{2}{5}\pi \right) \\
&= 2i \sin \frac{2}{5}\pi \\
w^2 - w^3 &= \left(\cos \frac{4}{5}\pi + i \sin \frac{4}{5}\pi \right) - \left(\cos \frac{4}{5}\pi - i \sin \frac{4}{5}\pi \right) \\
&= 2i \sin \frac{4}{5}\pi
\end{aligned}$$

より $(w - w^4) + (w^2 - w^3) = i \left(2 \sin \frac{2}{5}\pi + 2 \sin \frac{4}{5}\pi \right)$, すなわち $2 \sin \frac{2}{5}\pi + 2 \sin \frac{4}{5}\pi = \frac{\beta}{i}$ を得る. よって, **⑧** および $2 \cos \frac{2}{5}\pi - 2 \cos \frac{4}{5}\pi$ のときと同様の理由で $2 \sin \frac{2}{5}\pi + 2 \sin \frac{4}{5}\pi > 0$ が成り立つこともふまえ,

$$\begin{aligned}
2 \sin \frac{2}{5}\pi + 2 \sin \frac{4}{5}\pi &= \frac{\sqrt{-(5 + 2\sqrt{5})}}{i} \\
&= \frac{i\sqrt{5 + 2\sqrt{5}}}{i} \\
&= \sqrt{5 + 2\sqrt{5}}
\end{aligned}$$

となる.

$\theta = \frac{4}{5}\pi, \frac{6}{5}\pi, \frac{8}{5}\pi$ としても同様の結果が得られる.

〔II〕

解答 $f(x) = 2\sqrt{x-1} (x \geq 1)$ とおくと, $x > 1$ で $f'(x) = \frac{1}{\sqrt{x-1}}$ が成り立つ.

(1) l の方程式は $y - f(a) = f'(a)(x - a)$ であり, これを計算すると, $y = \frac{1}{\sqrt{a-1}}x + \frac{a-2}{\sqrt{a-1}}$ となる. よって,

$$m = \frac{1}{\sqrt{a-1}}, \quad n = a-2$$

(2) 直線 AH は, 点 $A(1, 0)$ を通り, 傾き $-\sqrt{a-1}$ の直線である (l と直交するから). よって, 直線 AH の方程式は, $y - 0 = -\sqrt{a-1}(x - 1)$, すなわち, $y = -\sqrt{a-1}x + \sqrt{a-1}$ である.

この方程式と (1) で求めた直線 l の方程式を連立させて解くと, $x = \frac{1}{a}, y = \frac{(a-1)\sqrt{a-1}}{a}$ が得られる. よって, H の座標は

$$H\left(\frac{1}{a}, \frac{(a-1)\sqrt{a-1}}{a}\right)$$

である.

点 Q は線分 AP 上にあり, $PQ = AH$ であるから, $(P \text{ と } Q \text{ の } x \text{ 座標の差}) = (A \text{ と } H \text{ の } x \text{ 座標の差})$ と言えて, これより

$$(Q \text{ の } x \text{ 座標}) - 0 = 1 - \frac{1}{a} \quad \text{すなわち} \quad (Q \text{ の } x \text{ 座標}) = 1 - \frac{1}{a}$$

とわかる. 点 Q は直線 AH 上にあることに注意すると, その y 座標もわかり, 点 Q の座標は

$$Q\left(1 - \frac{1}{a}, \frac{\sqrt{a-1}}{a}\right)$$

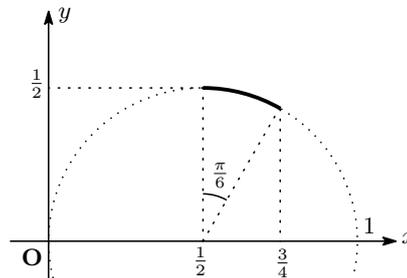
とわかる.

(3) 「2点間の距離」を求める公式より

$$MQ = \sqrt{\left(1 - \frac{1}{a} - \frac{1}{2}\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{a-1}}{a} - 0\right)^2} = \frac{1}{2}$$

(4) (3) の結果より, 点 Q は, 点 $M\left(\frac{1}{2}, 0\right)$ を中心とする半径 $\frac{1}{2}$ の円周上を動く.

$a = 2$ のとき点 Q の座標は $\left(\frac{1}{2}, \frac{1}{2}\right)$ であり, $a = 4$ のとき点 Q の座標は $\left(\frac{3}{4}, \frac{\sqrt{3}}{4}\right)$ であり, 点 Q の x 座標である $1 - \frac{1}{a}$ は a の単調増加関数であるから, 点 Q の軌跡は, 点 M を中心とする半径 $\frac{1}{2}$ の円周の一部分であり (下図の太線部分), 点 Q の軌跡である円弧の両端は点 $\left(\frac{1}{2}, \frac{1}{2}\right)$ と点 $\left(\frac{3}{4}, \frac{\sqrt{3}}{4}\right)$ である.



点 Q の軌跡である円弧に対応する中心角の大きさは $\frac{\pi}{6}$ であるから, 点 Q の軌跡の長さは

$$\frac{1}{2} \times \frac{\pi}{6} = \frac{\pi}{12}$$

である.

(III)

■ 解答例 □

$$(1) \quad I_0 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^0 x \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} 1 \cdot dx = \left[x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \underline{\underline{\frac{\pi}{2}}}$$

$$J_0 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x^2 \cos^0 x \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x^2 \cdot 1 \cdot dx = \left[\frac{x^3}{3} \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \underline{\underline{\frac{\pi^3}{24}}}$$

$$K_0 = \frac{J_0}{I_0} = \frac{\pi^3}{24} \cdot \frac{2}{\pi} = \underline{\underline{\frac{\pi^2}{12}}}$$

$$(2) \quad \begin{aligned} I_{n+1} &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^{2n+2} x \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos x \cdot \cos^{2n+1} x \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} (\sin x)' \cdot \cos^{2n+1} x \, dx \\ &= \left[\sin x \cdot \cos^{2n+1} x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} - \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin x \cdot (2n+1) \cos^{2n} x \cdot (-\sin x) \, dx \\ &= (2n+1) \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^2 x \cos^{2n} x \, dx = (2n+1) \int_0^{\frac{\pi}{2}} (1 - \cos^2 x) \cos^{2n} x \, dx \\ &= (2n+1) \int_0^{\frac{\pi}{2}} (\cos^{2n} x - \cos^{2n+2} x) \, dx \\ &= (2n+1) \left(\int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^{2n} x \, dx - \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^{2n+2} x \, dx \right) = (2n+1) (I_n - I_{n+1}) \end{aligned}$$

よって, $I_{n+1} = (2n+1) (I_n - I_{n+1})$ より,

$$(2n+2) I_{n+1} = (2n+1) I_n$$

$$I_{n+1} = \frac{2n+1}{2n+2} I_n$$

$$\therefore a_n = \underline{\underline{\frac{2n+1}{2n+2}}}$$

$$(3) \quad \begin{aligned} J_{n+1} &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} x^2 \cos^{2n+2} x \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos x \cdot x^2 \cos^{2n+1} x \, dx \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} (\sin x)' \cdot x^2 \cos^{2n+1} x \, dx \\ &= \left[\sin x \cdot x^2 \cos^{2n+1} x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} - \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin x \cdot \{2x \cos^{2n+1} x + x^2 \cdot (2n+1) \cos^{2n} x \cdot (-\sin x)\} \, dx \\ &= - \int_0^{\frac{\pi}{2}} \{2x \sin x \cos^{2n+1} x - (2n+1) x^2 \sin^2 x \cos^{2n} x\} \, dx \\ &= -2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \left(-\frac{1}{2n+2} \cos^{2n+2} x \right)' \, dx + (2n+1) \int_0^{\frac{\pi}{2}} x^2 (1 - \cos^2 x) \cos^{2n} x \, dx \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 &= -2 \left(\left[-\frac{x}{2n+2} \cos^{2n+2} x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} + \frac{1}{2n+2} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^{2n+2} x \, dx \right) \\
 &\quad + (2n+1) \left(\int_0^{\frac{\pi}{2}} x^2 \cos^{2n} x \, dx - \int_0^{\frac{\pi}{2}} x^2 \cos^{2n+2} x \, dx \right) \\
 &= -\frac{1}{n+1} I_{n+1} + (2n+1) (J_n - J_{n+1})
 \end{aligned}$$

よって, $J_{n+1} = -\frac{1}{n+1} I_{n+1} + (2n+1) J_n - (2n+1) J_{n+1}$ より,

$$(2n+2) J_{n+1} = -\frac{1}{n+1} I_{n+1} + (2n+1) J_n$$

$$J_{n+1} = -\frac{1}{2(n+1)^2} I_{n+1} + \frac{2n+1}{2n+2} J_n$$

$$\therefore b_n = \underbrace{-\frac{1}{2(n+1)^2}}, \quad c_n = \underbrace{\frac{2n+1}{2n+2}}$$

(4) (2), (3) の結果より,

$$\begin{aligned}
 K_{n+1} - K_n &= \frac{J_{n+1}}{I_{n+1}} - \frac{J_n}{I_n} = \frac{b_n I_{n+1} + c_n J_n}{I_{n+1}} - \frac{J_n}{I_n} \\
 &= b_n + \frac{c_n J_n}{I_{n+1}} - \frac{J_n}{I_n} = b_n + \frac{c_n J_n}{a_n I_n} - \frac{J_n}{I_n} \\
 &= b_n + \frac{c_n}{a_n} \cdot \frac{J_n}{I_n} - \frac{J_n}{I_n} = b_n + \frac{J_n}{I_n} - \frac{J_n}{I_n} \quad (\because a_n = c_n) \\
 &= \underbrace{-\frac{1}{2(n+1)^2}}
 \end{aligned}$$

(5) (4) の結果より,

$$K_n - K_{n-1} = -\frac{1}{2n^2}$$

$$\frac{1}{n^2} = 2(K_{n-1} - K_n)$$

よって,

$$\begin{aligned}
 \sum_{n=1}^N \frac{1}{n^2} &= \sum_{n=1}^N \{2(K_{n-1} - K_n)\} \\
 &= 2\{(K_0 - \cancel{K_1}) + (\cancel{K_1} - \cancel{K_2}) + (\cancel{K_2} - \cancel{K_3}) + \cdots + (\cancel{K_{N-2}} - \cancel{K_{N-1}}) + (\cancel{K_{N-1}} - K_N)\} \\
 &= 2(K_0 - K_N) = 2K_0 - 2K_N
 \end{aligned}$$

したがって, $\lim_{n \rightarrow \infty} K_n = 0$ であることより,

$$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2} = \lim_{N \rightarrow \infty} \sum_{n=1}^N \frac{1}{n^2} = \lim_{N \rightarrow \infty} (2K_0 - 2K_N) = 2 \cdot \frac{\pi^2}{12} - 2 \cdot 0 = \underbrace{\frac{\pi^2}{6}}$$

〔IV〕

■ 解答例 □

(1) $g(x) = \int_0^x f(t) dt$ の両辺を x で微分すると,

$$g'(x) = f(x) = \frac{\sin \pi x}{x^2 - 72x + 2025} = \frac{\sin \pi x}{(x - 36)^2 + 27^2}$$

$(x - 36)^2 + 27^2 > 0$ より, $g'(x) = 0$ となる x は,

$$\sin \pi x = 0 \quad \text{すなわち, } x = k \quad (k \text{ は整数})$$

さらに, m を整数としたとき,

$$2m \leq x \leq 2m + 1 \text{ のとき, } \sin \pi x \geq 0$$

$$2m + 1 \leq x \leq 2m + 2 \text{ のとき, } \sin \pi x \leq 0$$

x	\dots	$2m$	\dots	$2m + 1$	\dots
$g'(x)$	$-$	0	$+$	0	$-$
$g(x)$	\searrow	極小	\nearrow	極大	\searrow

であることに注意すると, $g(x)$ の増減表は右表の通り.

これより, $g(x)$ は,

$$x = 2m \text{ のとき極小値をとり, } (\dots\dots \textcircled{1})$$

$$x = 2m + 1 \text{ のとき極大値をとる. } (\dots\dots \textcircled{2})$$

よって, $0 < x < 10$ において,

$$g(x) \text{ の極小値を与える } x \text{ は, } \underline{\underline{x = 2, 4, 6, 8}}$$

$$g(x) \text{ の極大値を与える } x \text{ は, } \underline{\underline{x = 1, 3, 5, 7, 9}}$$

(2) $\sin(\theta + \pi) = -\sin \theta$ を繰り返し用いると,

$$\sin(\theta + \pi n) = -\sin\{\theta + \pi(n - 1)\} = \dots = (-1)^n \sin \theta$$

これを用いて考える.

$$\int_n^{n+1} f(x) dx = \int_n^{n+1} \frac{\sin \pi x}{(x - 36)^2 + 27^2} dx$$

x	n	\rightarrow	$n + 1$
s	0	\rightarrow	1

$x - n = s$ とおくと, 右表と $\frac{dx}{ds} = 1$ であることから,

$$\begin{aligned} \int_n^{n+1} \frac{\sin \pi x}{(x - 36)^2 + 27^2} dx &= \int_0^1 \frac{\sin(\pi s + \pi n)}{(s + n - 36)^2 + 27^2} \frac{dx}{ds} \cdot ds \\ &= \int_0^1 \frac{(-1)^n \sin \pi s}{(s + n - 36)^2 + 27^2} ds \\ &= (-1)^n \int_0^1 \frac{\sin \pi x}{(x + n - 36)^2 + 27^2} dx \quad \dots\dots \textcircled{3} \end{aligned}$$

次に,

$$\int_{n-1}^n f(x) dx = \int_{n-1}^n \frac{\sin \pi x}{(x-36)^2 + 27^2} dx$$

$x - n = -u$ とおくと, 右表と $\frac{dx}{du} = -1$ であることから,

x	$n-1$	\rightarrow	n
u	1	\rightarrow	0

$$\begin{aligned} \int_{n-1}^n \frac{\sin \pi x}{(x-36)^2 + 27^2} dx &= \int_1^0 \frac{\sin(-\pi u + \pi n)}{(-u+n-36)^2 + 27^2} \frac{dx}{du} \cdot du \\ &= - \int_1^0 \frac{(-1)^n \sin(-\pi u)}{(u-n+36)^2 + 27^2} du \\ &= (-1)^{n+1} \int_1^0 \frac{-\sin \pi u}{(u-n+36)^2 + 27^2} du \\ &= (-1)^{n+1} \int_0^1 \frac{\sin \pi x}{(x-n+36)^2 + 27^2} dx \dots\dots \textcircled{4} \end{aligned}$$

以上 ③, ④ 式より, 求める正の定数 p, q の組 (p, q) の 1 組は, $(p, q) = (36, 27)$

(3) $i(n) = g(n+1) - g(n-1)$ として, ③, ④ 式を用いると,

$$\begin{aligned} i(n) &= \int_0^{n+1} f(x) dx - \int_0^{n-1} f(x) dx \\ &= \int_{n-1}^{n+1} f(x) dx = \int_{n-1}^n f(x) dx + \int_n^{n+1} f(x) dx \\ &= (-1)^{n+1} \int_0^1 \frac{\sin \pi x}{(x-n+36)^2 + 27^2} dx + (-1)^n \int_0^1 \frac{\sin \pi x}{(x+n-36)^2 + 27^2} dx \\ &= (-1)^{n+1} \int_0^1 \left\{ \frac{\sin \pi x}{(x-n+36)^2 + 27^2} - \frac{\sin \pi x}{(x+n-36)^2 + 27^2} \right\} dx \\ &= (-1)^{n+1} \int_0^1 \frac{\sin \pi x \{ (x+n-36)^2 + 27^2 - (x-n+36)^2 - 27^2 \}}{h(x)} dx \\ &\quad \left(h(x) = \{ (x-n+36)^2 + 27^2 \} \{ (x+n-36)^2 + 27^2 \} \text{とおいた} \right) \\ &= (-1)^{n+1} \cdot 4(n-36) \int_0^1 \frac{x \sin \pi x}{h(x)} dx \dots\dots \textcircled{5} \end{aligned}$$

$h(x) = \{ (x-n+36)^2 + 27^2 \} \{ (x+n-36)^2 + 27^2 \} > 0$ より, $\int_0^1 \frac{x \sin \pi x}{h(x)} dx > 0$

これより, $g(n-1) = g(n+1)$, すなわち $i(n) = 0$ となる整数 n は,

$$n - 36 = 0 \quad \text{よって, } \underline{n = 36}$$

(4) ④ 式より, 整数 n の偶奇で場合分けして考える.

(i) $n = 2\ell$ のとき

$$i(2\ell) = (-1)^{2\ell+1} \cdot 4(2\ell - 36) \int_0^1 \frac{x \sin \pi x}{h(x)} dx = 8(18 - \ell) \int_0^1 \frac{x \sin \pi x}{h(x)} dx$$

これより,

- $18 - \ell > 0$, すなわち $\ell < 18$ のとき

$$i(2\ell) = g(2\ell + 1) - g(2\ell - 1) > 0 \quad \text{これより, } g(2\ell - 1) < g(2\ell + 1)$$

- $18 - \ell = 0$, すなわち $\ell = 18$ のとき

$$i(36) = g(37) - g(35) = 0 \quad \text{これより, } g(35) = g(37)$$

- $18 - \ell < 0$, すなわち $\ell > 18$ のとき

$$i(2\ell) = g(2\ell + 1) - g(2\ell - 1) < 0 \quad \text{これより, } g(2\ell - 1) > g(2\ell + 1)$$

これらと ② より, $0 \leq x \leq 1000$ において, 極大値の大小関係を調べると,

$$g(1) < g(3) < \dots < g(33) < g(35) = g(37) > g(39) > \dots > g(999)$$

(ii) $n = 2\ell + 1$ のとき

$$i(2\ell + 1) = (-1)^{2\ell+2} \cdot 4(2\ell - 35) \int_0^1 \frac{x \sin \pi x}{h(x)} dx = 4(2\ell - 35) \int_0^1 \frac{x \sin \pi x}{h(x)} dx$$

これより,

- $2\ell - 35 > 0$, すなわち $\ell > \frac{35}{2}$ のとき

$$i(2\ell + 1) = g(2\ell + 2) - g(2\ell) > 0 \quad \text{これより, } g(2\ell) < g(2\ell + 2)$$

- $2\ell - 35 < 0$, すなわち $\ell < \frac{35}{2}$ のとき

$$i(2\ell + 1) = g(2\ell + 2) - g(2\ell) < 0 \quad \text{これより, } g(2\ell) > g(2\ell + 2)$$

これらと ① より, $0 \leq x \leq 1000$ において, 極小値の大小関係を調べると,

$$g(0) > g(2) > \dots > g(34) > g(36) < g(38) < \dots < g(1000)$$

以上 (i), (ii) より, $0 \leq x \leq 1000$ において,

$$g(x) \text{ の最小値を与える } x \text{ は, } \underline{\underline{x = 36}}$$

$$g(x) \text{ の最大値を与える } x \text{ は, } \underline{\underline{x = 35, 37}}$$